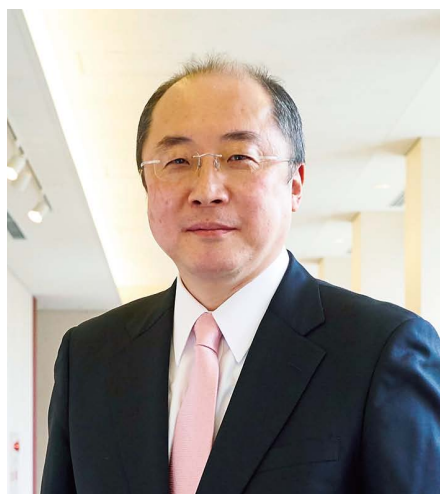


会報 100号発刊にあたって



会長 平泉 憲一

山桜会は、昨年(平成28年)100周年を迎え、今回、会報100号を発刊することができました。いずれも諸先輩の方々及び現会員のみなさま方の長年にわたる弛まぬご尽力・ご支援の賜によるもので、深く感謝いたします。

会報は、会員相互の情報共有にとって不可欠のインフラです。

そして、共有すべき情報は、山桜会の発展が学院の発展と表裏の関係にあることに鑑みると、山桜会固有の情報のみならず、母校である追手門学院や同じく学院の卒業生である大学校友会の情報も含む、オール追手門の情報であるべきです。それぞれが共通認識をもって理解し合うことこそが、少子化が進む現在における追手門学院や同窓会の発展にとって大変重要な

前提だからです。前号の会報(99号)を学院・大学校友会との三者統合誌にて発刊したことも、そのひとつの試みでした。いかがだったでしょうか。

また、情報発信方法も、会報だけに頼らず、ホームページ、メールマガジン等様々な媒体を通じて、その特性を活かして行っていくべきであるとも思っています。これにより、必要な情報がより適時・適切に配信できるように尽力していきたいと考えております。

このような広報体制を実現するためにも、山桜会は、学院、大学校友会とも連携を深めて活動をしながら、次の200周年、会報200号を目指していく所存ですので、今後とも皆さまのご意見・ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

追手門学院

山桜会会報 100号発刊を祝す



理事長 川原 俊明

平泉会長はじめ山桜会の皆様には、日頃から母校の運営にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

山桜会会報100号発刊、心よりお喜び申し上げます。昨年の山桜会100周年記念式典での卒業生1200名の結集も含め、長年の活動の成果です。

本学は、いま、全学的な教学改革に取り組んでいます。教育力を向上させ、生徒たちの学力を徹底的に高めます。20年、30年先の教育を想定した新教育。従来の枠を超えた教育形態に挑戦します。

予測困難な未来社会を切り開くため、生徒たちには主体的な学びを修得してもらいます。茨木市太田の新キャンパス地に大学棟とともに建設され

る茨木の中高新校舎。小学校新東館(メディアラボ)建設。いずれも次世代型教育を実践するにふさわしい新校舎です。

今年4月発売の「大学ランキング」に、教育面で注目すべき大学として追手門学院大学が全国767大学中13位に。近時発売のサンデー毎日には、「人氣がアップしそうな学校」「大学合格実績が伸びている、来年伸びそうな学校」に、追手門学院が名だたる難関・上位校と並んで紹介されました。教学改革の成果です。

来年は、学院創立130周年。1万人規模の記念式典を開催します。

山桜会の皆さんもぜひ御参加ください。

追手門学院創立130周年記念式典

2018年11月7日(水)大阪城ホールにて開催決定!

※詳細は次号にてお知らせいたします。